FUJIFILM
Value from Innovation

2018 富士フイルム 営業写真コンテスト作品集

◆2018富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品集をお届けします。このコンテストも今回で55回目を迎えます。これまでの作品の傾向を見ると「格調高く、品良く」というキーワードのもと“これぞ営業写真”という作品が上位に入賞してきました。それら作品は、言い方を変えると営業写真の本質を表現した伝統的な写真で、これは未来永劫、普遍的に追い求めるべき写真です。

第二、第三世代の新しい営業写真に期待感

◆ただ、世の中、第二世代、第三世代……というように時代が流れていくなかで、営業写真分野も新世代の斬新な作品が多く見られます。これを踏まえ、当コンテストは、営業写真の幅を拡げることを念頭に置き、従来の路線を重視しながらも、新しい写真の応募も期待いたしますので、チャレンジ精神のもとどしどしご応募ください。

◆さて、今回の応募総数は9,934点（前年比101％）応募者数3,011名（前年比98％）という結果になりました。

◆今回の作品の傾向を見てみると、全体的に濃度・階調・色調・色バランスとも高いレベルで安定化傾向を維持しており、一時期のデジタル特有の白飛びやシャドーのつぶれ、赤黄傾向の肌色、トーンジャンプ等が少なく、安心して評価できるプリントが大半を占めて、写真館とラボとの十分な連携がされていることがうかがえました。

◆また、ロケーション・スナップでは逆光を上手く利用し、正面からの程よい補助光やレフを使って柔らかな表現で成功した作品が多く見られたほか、大人ポートレートや家族写真に力作が多かったように感じました。

◆審査の段階で気になった点を挙げると●カメラセンサーと六切プリントのアスペクト比の違いのために天地バランスの悪い作品が散見された●ほんの数ミリのトリミング、1～2°の傾き補正でさらに良くなる写真が多く見られた●白や色を付けた幅広の枠を入れて、効果的に作品レベルを上げた作品も多くあったが、中途半端で何のための枠なのか分からないものも見られた。

テーマ別にみると

◆大人ポートレート＝しっかりとしたライティング、素直なポージングで被写体の人格や生きざままで表現された素晴らしい作品が増えてきた。

◆家族写真＝家族の絆、愛情を表現した写真が多くあったが、全体に黒バックが多く、シャドーのつぶれがある作品も見受けられた。

◆子供写真＝素直で可愛い写真が多くあったが、なかには子供に似つかわしくない物を持たせたり、奇抜なポーズで意味不明の作品も見られた。また、ニューボーン写真の応募が多数あり、新たな撮影分野になってきた。

◆入卒園・入卒学・七五三＝入学等小さかった頃の写真を入れて成長を感じさせる作品が目に付いたが、それ以上に変化に富んだ写真は見かけなかった。もう少しチャレンジしてほしい。

◆成人式・婚礼写真＝婚礼写真では和洋とも型物の写真は少なく、アルバムのなかの1枚と思えるカットが目立った。

◆ロケーション・スナップ＝屋外での光、背景など新しい観点で表現された優秀な作品が多かった。

◆アルバム＝全体的にストーリー性に乏しく、目に付いた作品は少なかった。

――以上の良い点、改善点を考慮していただき、次回もまた意欲あふれる作品を期待します。

作品集への掲載順は賞の順、写真館様所在地の北から順、同一都道府県内は郵便番号順で掲載しています。一部、レイアウトの都合上、順番の入れ替わりがあります。

CONTENTS

2018富士フイルム営業写真コンテスト作品集

2018富士フイルム営業写真コンテスト入賞発表

●金賞 …… 1
●銀賞 …… 2
●銅賞 …… 7
●審査員特別賞 …… 17
●優秀賞 …… 18
●テーマ賞（大人ポートレート写真） …… 22
●テーマ賞（家族写真） …… 26
●テーマ賞（子供写真） …… 30
●テーマ賞（入卒園・入卒学・七五三写真） …… 34
●テーマ賞（成人式・婚礼写真） …… 38
●テーマ賞（ロケーション・スナップ） …… 42
■金賞作家を訪ねて …… 46
■INFORMATION
富士フイルム営業写真コンテスト表彰式開催 …… 48

金賞

「お気に入りのスーツで」　滝澤一浩　タキザワ写真館（長野）

データ：デジタル一眼レフ　24～70mm　F4　1/80　ストロボ

■選評

品格のある男性ポートレートで、随所にプロの確かな技術力を感じさせ、秀逸の1枚に仕上げられている作品です。柔和な表情、手の仕草、足の組み方、白い椅子とのマッチング、立体感のある最適なライティングなど、どれをとっても作者の高い感性で作り上げられ、上品さを助長しています。体を左に傾け、画面右側を空けていますが、椅子によってバランスを取りながら画面全体に変化をつけていて、構図の面でも卓越したテクニックを感じます。ポージングと表情により、この方の清潔さ・誠実さを表現していますが、これは作者がこの人らしさを熟知していて、対話のなかでストレートに描写していると思われ、この点でも表現力の高さが表れています。

■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの金賞をいただき感無量でございます。過去に銀賞まではいただいておりましたが、今回まさかの金賞受賞、驚きとともに夢のようです。受賞写真のお客様は、私の女房の高校時代の親友のご主人様で、一度ご夫婦一緒の写真を撮らせていただいたのが、気に入っていただき、今度は、お気に入りのスーツを着用した写真を撮ってくれとの依頼で何カットかお撮りいたしました。優しい御方でそしてダンディー。笑顔も素敵であとは私がこの御方の雰囲気を壊さぬよう撮影しただけで、この御方に助けられた1枚でございます。ありがとうございました。

思えば数年前、入院などしたことのなかった健康だけが取り柄の私が病気が見つかり手術をしました。その時に、今まで当たり前だったことが何て素晴らしいことなのだ。今自分があるのは全て私にかかわっている人々、物、自然のお陰なのだ。と痛切に感じました。私も気がつけば五十数年生かされ、三十五年写真で生活させていただいております。入院させていただいた時の気持ちを忘れずに、残りの人生道、写真道を感謝し、味わいながら進んでいきたいと思います。最後になりましたが有賀長敏先生、小林正明先生、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめ諸先輩、ご同輩、志高き友人たち、アートカラーラボの皆様、私の大事な家族、多くのご縁ある方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

〈弱いから迷いがあるから一生懸命〉

（制作ラボ：㈱アートカラーラボ）

「大好きなパパとママと」　福田鎌一郎　㈲福田写真館（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　24～70mm　F2.8　1/60　自然光+ストロボ

■選評

お洒落で素敵なファミリー写真です。適切で計算されたライティングでパパ、ママの白シャツも飛びがなく、ディテールがしっかりと出ています。また、右からのアクセントライトも３人のヘアーとパパの肩口に当てられ、バックとの分離に成功し、被写体を引き立てています。そのバックには花瓶とその後ろのアンバー系の光、右側のソファーとでお洒落感を演出しながら、奥行き感も表現され、作者の高い感性が感じられます。統一された赤のスニーカーもアクセントとして効いており、さらにママの膝を折っていることで、女性らしさが表現され、構図的にも全体を逆Ｃの字にして変化をつけています。全てにおいて作者の細かな配慮が感じられます。

■喜びの声

可愛いういなちゃん、カッコいいパパとかわいいママ。笑顔がステキなご家族、そこにいるだけで絵になってしまいます。
今回は3人お揃いの赤いスニーカーが印象的でした。恥ずかしがり屋のういなちゃん、やっぱりパパとママにギュッてしてもらってニッコリ、一番の笑顔になりました。いつもの笑顔、いつもの家族、いつもの何気ない一枚がご家族の宝物になってくれると私も幸せです。
一番の目標である富士フイルム営業写真コンテスト、恐れ多くも銀賞、身に余る光栄で恐縮しております。夢の帝国ホテル、感謝感激です。
写真館という素晴らしい仕事ができるのも、たくさんの方との出会いがあってのことと思っています。写真館のことを一から教えてくださった内田雅之先生、いつもご指導いただいております北海道営業写真家協会の伊豆倉淳代表、サークル「風」の柴田昌勝代表をはじめ諸先輩、仲間の皆様、そしていつも支えてくれるスタッフや家族、心から感謝を申し上げます。これからもこの賞に恥じないように、おごることなく一生懸命勉強していきたいと思います。最後に素晴らしいコンテストを続けていただいている富士フイルムの皆様、本当にありがとうございます。また、帝国に来られるように頑張ります！
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　北海道）

「冬の日」　佐藤公哉　㈲佐藤写真館（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　85mm　F2.5　1/10　ストロボ

■選評

タイトルどおり、そのコスチュームから「冬」をイメージさせる女性ポートレートですが、優しい表情と背景のアンバー系の色とで温かみを感じさせる作品に仕上げられています。この作品では、背景を単色にしなかったところにポイントがあり、暖色と黒とでメリハリを付けながら、背景のオブジェをボカして奥行き感を表現し、被写体を効果的に引き立てています。ハイエストライトを効かせたライティングで顔に立体感を表現し、画面下も程よく落として見る人の目を顔に誘導しており、巧みな光のコントロールを感じさせます。また、体の向きに対して顔を逆方向に向けて、首を傾げている点なども、女性らしさを効果的に演出しています。

■喜びの声

このたびは2018富士フイルム営業写真コンテストにおいて銀賞という身に余る賞をいただきましてまことにありがとうございました。これはひとえにご愛顧くださるお客様、お取引先様、ラボ様、家族、そしてご指導くださるサークル「風」の柴田代表はじめ諸先輩・仲間たち、また北海道営業写真家協会のメンバー、特に30年以上継続して合評会をやっている北見ブロックの皆さんのおかげです。
今回21年ぶりの上位入賞ということで自分が一番びっくりしている次第です。入賞すればいいなぐらいの軽い気持ちでいましたところ、すぐに自分の名前があり実感がないままの時間が過ぎました。お客様に連絡して公表の承諾をもらうときにお客様が非常に喜んでくださったのでようやく実感した次第です。このお客様は卒業アルバムを制作している高校の卒業生で卒業のグループ写真を撮影させていただいたのがご縁で撮影に来ていただくようになりました。とても笑顔が上品な可愛いお嬢様でモデル勝ちの部分が大きいと思いますが、運も良かったことに感謝しています。うちのスタジオのストロボでは絞りを開放付近にできないので今回クリップオンのストロボ２灯＋タングステンで撮影いたしました。最近は新しい小型の良い機材がたくさん出てきて隔世の感はありますが使えるモノは活かしてさらにお客様に喜ばれる良い写真を作っていきたいと思います。このたびは本当にありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　北海道）

「Lady」　佐直和春　㈲佐直写真館（山形）

データ：中判ミラーレスデジタルカメラ　110mm　F2.0　1/100　ストロボ

■選評

女性の清楚なイメージをシンプルに表現した上品な写真です。ダーク系の衣装と帽子の組み合わせのなかで、背景をどうするか悩んでしまいますが、この写真では濃淡のグラデーションのあるバックを使用し、立体感が出る最適な位置に立ってもらって、しかもバックライトを髪に当てて、より被写体を引き立てています。帽子を被った方のライティングは難しいものですが、顔、帽子共に破綻のない綺麗な光が当たっており、高度なテクニックを感じさせます。このライティングと伏し目がちな表情とで女性の奥ゆかしさを表現しています。また、この女性にとって自慢の長髪だと思いますが、髪の毛のディテールも出ていて、自然な階調で暗部に溶け込んでいます。

■喜びの声

このたびは栄えある銀賞をいただき、ありがとうございました。
常に目標にしている富士フイルム営業写真コンテストでの上位入賞！そして帝国ホテルに行けることは心からうれしく思っております！
また、お客様をはじめほんとにたくさんの方から祝福の声をいただき最高の気分です！
今回の写真は自分でもとても好きな一枚です。
シンプルな構図・素直な色を気にしながら、アクセントライトでポイントをつくり、光で女性の柔らかさを出しつつ、彼女の持つ雰囲気と全体のラインの綺麗さも出したつもりです。洋服や背景、彼女の表情などいい雰囲気を出せたかなぁと思っています。
カメラやライティング機材などが十分に揃っている今、新しい表現や流行の中にも、お客様の持っている雰囲気を大切にし、撮る側の個性も入れた写真。お客様が世代を超えて大切にしてもらえる写真を撮っていけるように今後も勉強していきたいと思っています。

最後に、私にとって師匠・諸先輩・全国の写真仲間の影響はとても大きなものです。
ビックリするくらいの刺激を与えてくれる PGC。
刺激以上の何かが必ず起こる A75＋－。
いつも細かなところまでチェックを入れてくれる伊藤塾。
そして、いつも最高のプリントをしてくれるアオバさん。
そのほかたくさん、言い尽くせない方々にお世話になっています。
全ての皆様に心より感謝いたします。
なんどでも経験したいこのうれしい気分…。
またここに来たいと思います！
ありがとうございました。
（制作ラボ：㈱アオバカラー）

「青春」　島瀬 航　シマセ写真館（富山）

データ：デジタル一眼レフ　24～70mm　F7.1　1/125　ストロボ

■選評

4 人の少女の、スポーツによる「青春」を溌剌とした笑顔で表現した元気の出る写真です。顔より大きいボールを、敢えて顔の近くに持ってきて 4 人を配置していますが、その配置の仕方が絶妙で、円形の構図のなかにバランスよく構成することで仲の良い 4 人のまとまりを感じます。ややもすると、ボールが目立ち過ぎになりがちなところを、硬めのライティングとすることでボールにシャドーを作り、目立たなくしています。またボールに印刷されたチーム名を故意に出すことで、アクセントとしての効果とチームの結束感を表現しており、随所にカメラマンの細かな配慮が感じられる作品です。

■喜びの声

このたびは歴史ある富士フイルム営業写真コンテストで銀賞をいただき誠にありがとうございます。入賞発表を見た時は心臓が止まりそうなくらいに驚きました。写真の子供たちとは卒業アルバムの撮影からご縁があり、バスケットボールスポーツチームの卒団記念にスタジオで撮影させていただきました。とても元気で笑顔が似合う子供たちで、学校でもスタジオでも楽しく撮影させていただいたことをよく覚えています。地域密着の写真館を目指してきた私にとって、地元の子供たちの写真で受賞できたことはこれ以上ない喜びです。また今回受賞できたのも、これまでお世話になった講師の先生方、切磋琢磨する富山県写真館青年部、PGC の仲間、修平塾塾長の小﨑修平さん、修平塾の仲間のおかげです。

そして修行時代からこれまで本当の父のように厳しく、時には優しく写真師としての『心』を指導くださった根岸眞一郎先生、ネギシファミリーには感謝してもしきれません。これまで出会うことができた方々お一人お一人に感謝し、これからも地域のお客様のためにより良い写真づくりに努力したいと思います。最後にこれまで支えてくれた家族、お客様に感謝いたします。
（制作ラボ：㈱フジカラー北陸　富山支社）

銀賞

「Mayu & Miyu 2017」　上野優子　上野写真館（徳島）

データ：デジタル一眼レフ　24～105mm　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

姉妹の愛らしさ、ちょっとはにかんだ気持ちが伝わってくる微笑ましい写真です。背景とコスチュームがマッチし、そのカラーハーモニーも良く、爽やかなイメージに仕上げている点に作者の力量を感じます。日に焼けた健康的な２人のお嬢さんを、夏の光をイメージしたライティングで元気さを強調しながら、足を組んで女の子らしさを表現し、さらにはお互いが寄り添って、姉妹愛をも描写しています。濃い色の木目の床に、三角形の構図でポージングしていることも安定感がありますし、六切の矩形のなかでの人物の大きさ・バランスも最適です。対話によって可愛い笑顔を引き出している点も、表情の誘導という点で作者の優しさが伝わってきます。

■喜びの声

このたびは名誉ある銀賞をいただき誠にありがとうございます。
いつかは…と目標にしていた上位入賞。もっとお客様に喜んでもらいたい、少しでも心に残るものをと思いながらもなかなか先へ進めず、もどかしい思いを抱えながら模索していたなか届いた知らせ。本当にうれしく感謝の気持ちでいっぱいです。
お二人に初めて会ったのはお宮参り、ご両親に大切にだっこされたぷくぷく可愛い赤ちゃんの頃でした。丸い椅子にお揃いのお洋服で二人ぴったりとくっつき撮影したことを覚えています。
以来、毎年欠かさず写真を残してくださいます。
今年はどんなふうに２人の『今』を残したらいいだろう。双子ちゃんの姉妹ですが、成長するにつれて見える個性の違い、繋がりのあたたかさを大切に。そしてお誕生日の夏の雰囲気を表現できればと撮影させていただきました。
２人の『この写真今までで一番好き！』が最高のお祝いです。
最後になりましたが、営業写真と向き合う礎を築いてくださった宮田利貞先生。日々の心、技術を惜しみなくご指導くださる先生方、仲間のみなさま。丁寧なプリントを仕上げてくださるプロカラーラボさん。心より感謝申し上げます。お客様に恵まれ、家族、地域に支えられ故郷に戻り写真を続けて本当によかったです。
そしてこれからも出会いのご縁を大切に、一枚の写真がかけがえのない毎日に彩りを添える宝物になるように心をこめて撮影していきたいと思います。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「夢」　早田圭佑　㈲早田写真館（北海道）

データ：デジタル一眼レフ　70～200mm　F2.8　1/640　自然光

■選評

シンプルなブライダルのロケーション写真ですが、２人の幸せ感がにじみ出る、愛情あふれる写真に仕上げられています。恐らく、この場所で幾度となく撮影していると思われ、背景にポツンとある１本の木、そのボケ具合、逆光のなかで人物に入る光の量など、全てにおいて計算されていると思われます。後ろからのラインライトも２人の髪、男性の肩口、ドレスに効果的に入って雰囲気を出しています。単調になりがちなバックの畑に、畝（うね）が程よく入っていることで遠近感と変化をつけ、さらに足元も緑を入れて引き締め、全体のバランスを取っています。それに加えて幸せな２人の表情により、タイトルどおり「夢」を感じさせる作品になっています。

■喜びの声

このたびは名誉ある銅賞をいただき、ありがとうございます。まさか銅賞をいただけると思いもしませんでした。とてもうれしい気持ちでいっぱいです。
5月の北海道、1日中撮影をしてラストカットでした。夕暮れ時になりかけ、だんだんと風が強くなり、肌寒くなりながらも新婚のお二人が、頑張ってくださり微笑んでくれました。
ド逆光で何枚もゴーストが出たりして難しかったのですが、何とか撮れたのがこの１枚です。
この写真の撮影場所は女満別メルヘンの丘という所です。ここでは黒澤明監督が晩年に「夢」という短編映画集の一つを撮影ロケしたそうです。この写真のタイトルを考えている時に、それをふと思い出しました。
そしてこの写真にも「夢」という画題をつけました。
遠くに見えている一本木が“幸せな家庭”、“新しい命”などの「夢」のメタファーであればいいなと思ったのです。その「夢」に向かって、新婚の笑顔のお二人が歩んで行ってほしいという私の願いが込められています。
今回の受賞に際しまして、川地先生をはじめ写真の川地、川地 OB 会の諸先輩方、お世話になっている皆様、家族、そして何よりお客様に心から感謝を申し上げます。
これからも私の「夢」である富士フイルム営業写真コンテスト金賞をいつか受賞できるように日々精進していきます。誠にありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　北海道）

銅賞

「花嫁」　成田行大　NC スタジオ青森（青森）

データ：デジタル一眼レフ　70～200mm　F3.5　1/160　ストロボ

■選評

白無垢・綿帽子の花嫁を品良く、優しく表現した写真です。こうした写真では被写体を中心に持ってきてシンメトリーに表現するのが一般的ですが、この写真では少し右に寄せて画面に変化を持たせています。背景に、左右非対称に赤を使っているところも画面構成上のメリハリという点で成功しています。ライティングについては、顔に当たる光が綺麗で、綿帽子の柄、襟元などのディテールも表現され、光のコントロールがしっかりとしている印象を受けます。金の扇子も画面下の抑え、またはアクセントとして効いています。伏し目で優しい表情は結婚の喜びと奥ゆかしさを感じさせてくれます。

■喜びの声

この素晴らしい賞をいただき感謝しています！
今までテーマ賞は何度かありましたが念願のコンテスト上位入賞です！
応募を始めてから20年もかかってしまいました。
この写真は、いつも撮影でお世話になっている地元保育園の先生の婚礼写真で実際にお客様に納品した写真で、特に賞狙いでモデルさんを依頼して撮った「作品」でもありません。
自分の中では「作品」ではなく「商品」として撮った1枚です。素直にうれしいですね。
お客様はもちろん、仙台での修業時代にお世話になった皆さん、いつも綺麗なプリントを提供してくださるプロカラーラボさん、刺激のある勉強会を企画・実施してくださった青森県写真館協会の会員役員の皆さん、当店スタッフ関係者、そして、なんと言ってもいつもお客様をリラックスさせて撮影しやすい環境をつくってくれるうちのカミさん（成田真希子）のおかげです！
この賞は彼女がもらったと言ってもいいでしょう。
皆さん！本当にありがとうございました！
これに満足せず、まだ上に2つの賞があるので、今回の銅賞受賞を励みに！もっと上手くなれるように！
お客様に満足してもらう「写真」を撮るために！

研究・勉強をして、モチベーションを高めて、挑戦し続けたいと思います。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銅賞

「母子」　齋藤 明　㈱スタジオ・サイトー（山形）

データ：デジタル一眼レフ　50mm　F3.5　1/125　ストロボ

■選評

親子の情愛を感じさせる写真です。微笑みながら何かに興味を示している赤ちゃんの表情、その一瞬を捉えた可愛い写真に仕上げられています。赤ちゃんの突っ張った両手が、力強さと画面構成上の安定感を生み出し、顔の傾きと合わせて元気いっぱいの赤ちゃんを表現しています。お母さんの優しい笑顔も、赤ちゃんを引き立てるとともに愛情の強さを感じます。また、お母さんの顔の配置についても赤ちゃんとお母さんの顔を分離してしまうと、お母さんが目立ってしまいますが、この写真では故意に顔を重ねることによって主役の赤ちゃんを強調しています。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある銅賞をいただき誠にありがとうございます。
また、妻もテーマ賞入賞ということで二重の喜びとなりました。
入賞をいただいた作品は、裸の赤ちゃんキャンペーンから、毎年のファミリー写真に繋がっていくように企画した撮影での一枚です。毎回、それぞれの家族構成や人数により人物の配列やライティングを工夫しながら撮影しているなか、今回は母と子のお二人とのことでしたので、ライティングもシンプルにして、思いっきりお二人の親子愛にフォーカスしてみました。結果として、体温や香り、安心と愛情などの大胆なトリミングの中に収めることができたのかなと思っております。
これもひとえに、ご来館いただいたお客様をはじめ、いつも応援してくれる家族やスタッフ、富士フイルムイメージングシステムズの皆様のおかげと本当に感謝いたします。
これからも営業写真の良き伝統を受け継ぎながらも、新しい時代のスタイルも取り入れ、調和していける写真作りを目指して励んでいきます。
最後に、同じ志を抱き、切磋琢磨しながらいつも本気で営業写真の本質を語り、支えになっている六花塾、FAX の会をはじめ、全国の先輩方々、全ての人に心から感謝いたします。
ありがとうございました。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　東北）

銅賞

「夏のまこちゃん」　清田智勝　㈲セイタ写真館（神奈川）

データ：中判ミラーレスデジタルカメラ　110mm　F4.0　1/60　ストロボ

■選評

お洒落な女性ポートレートです。人物を左に寄せて構成していますが、一般的に人物を中心からずらすというのは意図を持ってやらないと意味のない空間になってしまいます。その点、この写真では右側にオブジェを入れて人物をやや左に配置するという絶妙な空間処理を施しています。洋服は襞が外側に広がり、逆に足元はクロスさせて菱形のポーズとし、そして手の仕草とちょっとした首の傾げで上品さと知的な雰囲気も感じさせます。ライティングも窓から差し込む夏の光をイメージし、やや低めから光を当ててお洒落感を増幅させています。作者のセンスの良さと高い技術力を感じる作品です。

■喜びの声

このたびは銅賞をいただき、誠にありがとうございました。日頃より、お客様に満足していただけるお写真を提供できるよう精進しておりますが、良い結果が何よりの励みになっております。
この富士フイルム営業写真コンテストには、いろいろな思い出がありますが、応募して22年。上位入賞できるのは、基礎を教えていただき、業界の重鎮なる先輩方との人脈を作ってくださった宮田先生をはじめとする、大先輩方の温かなご指導の賜物です。また日頃より刺激をいただいている、志を同じくする友にも改めて感謝いたします。
写真のお客様は、笑顔、仕草にとても品位を感じられる、お宮参りからご来館のお嬢様です。今回もお客様あっての受賞でした。
また、この時使用したカメラの富士フイルムGFX、110ミリの組み合わせも、写真を上質に仕上げる意味でも良かったのではないかと感じています。
サポートしてくれる最愛の家内に心から感謝しつつ、今後も謙虚に精進してまいります。
ありがとうございました。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　プロテク・イースト）

銅賞

「リズム良く♪」　東畑達也　㈲トーハタ写真館 Laluce（静岡）

データ：デジタル一眼レフ　85mm　F5.6　1/160　ストロボ

■選評

爽やかな笑顔で若さを感じる清々しい写真です。爽やかさを増幅するために、正面から風を送って、髪のエアリー感を出しており、コマーシャル写真風のフレッシュ感を表現しています。健康美あふれる表情も良く、首を傾げながら右足に重心をおいて左足をやや前に出しますが、これも体全体で動きを出していて若さの表現という点で成功しています。また、この写真では枠を入れていますが、大抵の場合、意味のない白枠だったりします。しかしこの写真では、両端に黒を持ってきて、バックも赤から黒のグラデーションとしていることで、効果的に被写体を活かしています。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの銅賞をいただき、誠にありがとうございます。
Web発表で自分の名前を銅賞の欄に見つけた時は、ずっと目標にしてきた帝国ホテルの表彰式に行ける！と喜びに身体が震えました。同時に、次々にお祝いのお電話やメッセージをいただいて、本当にたくさんの方々のおかげで銅賞をいただくことができたんだなと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。
いつもたくさんの気付きや学びとともに導いてくださる先生、先輩方。そして一緒に楽しく切磋琢磨しあう静岡県写真館協会青年部とチームトリカワチップスの皆、PGCの仲間たち。綺麗なプリントに仕上げてくださるプロカラーラボ様。ご縁ある全ての皆様に心より感謝申し上げます。
今回入賞させていただいた写真は、オーディション用のために撮った中の1枚です。高校生の彼女の明るく素敵な笑顔と、はつらつとした躍動感、夢に向かって頑張る希望を写真の中に込められたら…と想い、彼女自身の魅力を生かすことを意識しながら撮影しました。
今回の受賞を機に、これからもさらに精進を重ねていきたいと思います。そして、当館にお越しいただくお客様に写真を通して幸せと感動を届けられるよう、全力を尽くしてまいります。このたびは、本当にありがとうございました。全ての出会いに感謝です！
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「二十歳の記念」　登里直樹　ちどり写真館（兵庫）

データ：デジタル一眼レフ　24～70mm　F8.0　1/160　ストロボ

■選評

二十歳の記念で、お洒落な着こなしの若い男性を精悍なイメージで撮影している点が素晴らしいといえます。照明比を強くして男らしさを強調した硬めのライティングにしていますが、明るめの色のスーツにも最適な光となって、この男性を表現するのに適切なライトバランスといえます。また、顔を傾けてポケットに手を突っ込み、左足重心のポーズも、男らしさ、ワイルド感の表現という点で効果的です。画面右に当てているバックグラウンドライトも光の方向性を考えて入れてあり、光の扱いという面で作者の高い技術力を感じます。

■喜びの声

このたびは、栄えある銅賞をいただき、誠にありがとうございます。
撮影させていただいた佑旭くんは、お宮参りからずっと撮影させていただいているイケメン男子で、受賞できたのも、ほんと、モデルのおかげです（笑）
撮影したのは、成人式当日で、高校の時から、いつも一緒に居た仲間たち6人で『ともふぉと』の撮影が終わってからの一人写しでした。
友達から「かっこええ～♪」とかのヤジが飛んだり、ワイワイと楽しい雰囲気の中で撮影しました。　普段の撮影は『とびっきりの笑顔』をテーマに撮影しますが、二十歳の記念は、いつもと違う雰囲気で撮影することを楽しんでいます。
今回の受賞は、ちどり写真館を、今まで育ててくれ、応援してくれ、支えてくれた地域の人たち、お客様たち、スタッフたち…たくさんの人たちに感謝し、これからも、ちどり写真館を選んで来てくれるみなさまに、『いい写真』を届けたい！　そんな、頑張れるチカラをいただける機会となりました。
本当にありがとうございました！
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「小学校の思い出」　栗原芙由樹　クリハラ写真館（山口）

データ：デジタル一眼レフ　135mm　F1.8　1/400　自然光

■選評

練習を終えて帰った時でしょうか。そのホッとした表情を捉えた日常の１コマといえそうです。過度な演出をすることなく、正面から堂々と撮っていますが、夕日のなかで笑顔を引き出し、清々しい写真になっています。ユニフォームの青と夕方のオレンジ色が補色関係になっていて、青が引き立って人物を印象深く表現しており、さらに逆光のなかで人物に当たる光も計算され、顔に当たる光のバランスも最適です。また、カメラ位置を低くして空に上半身がくるように計算し、人物を引き立てています。何気ない背景ですが、縦の線を効かせ、日常感を表現しています。

■喜びの声

A 入賞の喜び
まさか上位三賞の入賞だとは思いもせず、驚いております。
モデルになってくださったお客様のママへ真っ先にご連絡をして、喜びを共有させていただきました。また、父母、親戚、友人から祝福の言葉やメッセージをいただきました。本当にこのたびは快挙といった印象を受けまして、とてもありがたいことだと思いました。
B 私のねらい
毎年、家族の記念写真を残しにご来店してくださるお客様で、今回はミニバスのユニフォームを着て卒団記念の写真のご依頼を受けました。
撮影には慣れていらっしゃるお子さんで、自然な表情等はもちろん上手な子でした。スタジオでの撮影を終えて、スタジオとは違った動きのある写真や雰囲気を重視した写真を撮りたいと思い、スタジオの外に出ました。夕日が良い具合に卒団のイメージとマッチしていると感じ、夕日を背景に写真を残したいと思いました。
C 苦労した点
被写体の背中に太陽があるくらいのド逆光でしたので、ピントも合わせづらく、思いどおりのスムーズな撮影ができるコンディションではなかったです。
また、目で見たとおりのイメージに近づけることと、自然な違和感のない写真の作成のために、RAW 現像等の後作業にも時間がかかりました。
D これからの抱負等
今回の受賞は、日々お客様が撮影に来てくださっているからだと感謝し、これからの撮影でも賞をいただけるような写真をたくさん残していけたらと思い、撮影に取り組んでいこうと思います。（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）

銅賞

「絆」　秋山義行　㈲内倉写真舘（宮崎）

データ：デジタル一眼レフ　24～105mm　F8.0　1/125　ストロボ

■選評

サッカーのチームを横１列で表現した見応えのある写真です。これだけの人数は１度で撮影するとなると、どうしても前後ろ、座らせて撮るのが一般的ですが、そうすると誰かを主役にしているように見えてしまいます。それぞれを均一に表現するとなると横１列がベストで、この写真では一人一人の個性を際立たせながら撮影している点に大きな魅力を感じます。個々のポージング、無骨さ・闘争心あふれる各々の表情を捉えたテクニックはプロとして高く評価できます。最初から「こう作りたい」という明確な意図があって、その計算のもとで撮影し、結果、成功している写真となっています。

■喜びの声

このたびは、栄えある「銅賞」をいただきまして、誠にありがとうございます。内倉写真舘会長であり、私の師匠である金賞作家内倉たけお先生をはじめ、いつもお客様に喜んでいただくために、最高の写真づくりを目指して団結してくれる内倉スタッフ、今回撮影させていただいた、西階中学校サッカー部の卒業生のみんな、保護者の皆様、より良い営業写真創りを目指して切磋琢磨し、厳しくも温かくご指導してくださる、情熱写真塾の皆様、プリントを制作してくださったラボネットワークの皆様、取引業者の皆様、選考いただいた、富士フイルムの皆様、家族、そして、内倉写真舘に関わっていただいた全ての皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。
この写真に写っているサッカー部のみんなはメンバー、保護者ともに、結束力がとてもハンパないチームでした。内倉写真舘のスタッフ全員の「良いものをつくりたい、お客様に楽しんでいただきたい」という想いと、サッカー部員および保護者の皆様の「良いものを残したい、思い出をつくってあげたい」という情熱が、今回の受賞につながったのではないかと思います。
今はみんな、別々の進路に進み、高校で部活を続けている子、サッカーをやめた子、それぞれです。この写真を本人たちが将来見た時に、中学時代に培った絆や、スタジオではしゃぎながら撮影したこと、最後の試合で流した涙、そんないろいろな風景を思い出してくれると、ありがたいと思います。写真は情熱！！（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）

銅賞

「のかぜ」　矢上敬一　矢上写真館 都城店（宮崎）

データ：デジタル一眼レフ　24～70mm　F9.0　1/125　ストロボ

■選評

個性的なコスチュームの女の子を、そのまま可愛らしく表現した作品です。一見、地味な写真に見えますが、敢えてこのファッションを選んだママの愛情が感じられ、見れば見るほど味が出てくる写真になっています。左側に傾けた体、表情、髪の毛の乱れ、手の仕草など、この子らしさをさりげなく表現している点に、作者の豊かな感性が感じられます。コスチュームに合わせて背景も同系色で揃え、カラーハーモニーという点でも優れています。また、自然光をイメージしたようなライティングも、このお子さんの表現には最適で、とくに顔に当たっている光がお嬢さんの明るさを助長しています。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストの銅賞をいただきまして誠にありがとうございます。あの帝国ホテルでの表彰式に私のような若輩者が再びお招きいただけるとは信じられない想いで大変うれしく思っております。これも、当店をご愛顧いただいているお客様や、志を高く切磋琢磨する鹿児島FPG、常に新しい気付きと絆のPGC、そしてこれまでお世話になりご指導いただいた、たくさんの皆様のおかげだと深く感謝しております。この作品名「のかぜ」とはモデルの女の子の名前で年賀状用の撮影でご来店された時の１枚です。とても元気な可愛らしい４歳のお子様でしたがご来店時の自然な雰囲気がとても印象的で、時折見せる大人びた表情が気に留まりました。そのままスタジオにお入りいただき、のかぜちゃんの空気感をシンプルに表現できるよう声をかけながらシャッターを押しました。今回の受賞はまだまだ未熟な私たち夫婦にとってとても大きな勇気をいただける賞になりました。これからも地域のお客様に喜んでいただけるよう努力していこうと思います。最後になりましたが、いつも最高のプリントで応えてくださる富士フイルムイメージングシステムズ㈱九州の皆様ありがとうございます。そして、となりで一生懸命にサポートしてくれる妻とスタッフに感謝します。これからもよろしくお願いします。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　九州）

銅賞

「男どうし」　塩屋大輔　写真のシオヤ（鹿児島）

データ：デジタル一眼レフ　50mm　F5.6　1/125　ストロボ

■選評

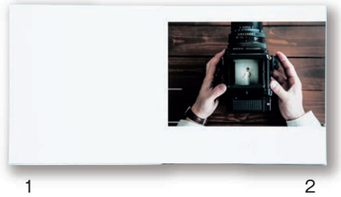
大胆な構図が素晴らしい親子の絆を感じさせる微笑ましい写真です。同じコスチュームでお父さんの足元に立たせて大きさの対比を意識しており「こんなに小さかったのだよ」と10年後、20年後に価値が高まる写真といえます。通常、大きさの対比をすると大きい方が目立ってしまいますが、この写真の主役はこのお子さんになっています。その背景には、はにかんだ可愛い仕草と笑顔が強調されていること、そしてお父さんが正面を向かずお子さんに優しい視線を送っているからで、見る方は自然に主役のお子さんに目が行くように誘導されます。お子さんの胸と同じ大きさの手も、愛情を持って包み込むイメージが強調されています。

■喜びの声

このたび、９年連続テーマ賞から10年目にして、初の銅賞を受賞することができ、本当に本当にうれしく思います。
帝国ホテルでの表彰式を夢みて14年、やっとのことで行くことができます。本当にありがとうございます。
作品のお客様は、マタニティーの撮影でこられました。お客様の今を残したいという思いで毎回撮影させていただいていて、家族・１人は、もちろん、これから兄弟ができる１人目の子どもさんの記念という意味もこめて撮影しました。その中で、撮影を待っている時のお父さんと子どもさんの雰囲気が最高によかったので、それを表現しようと無我夢中で撮影しました。子どもさんのあどけなさとお父さんの愛情が作ってくれた写真だと思っています。本当に感謝しかありません。
これからも、お客様１人１人と向き合い、最高に喜んでいただける写真を撮れるように、銅賞におごることなく、日々成長できるよう努力していこうと思います。
最後に、わがままな自分をいつも支えてくれる家族、写真のシオヤを支えてくださるお客様、福森先生をはじめとするふくもり塾のみなさん、PGC、FPG、その他自分に携わってくださっている先生方、先輩、仲間たちに本当に感謝しております。この場をお借りしてお礼を言わせてください。ありがとうございます。
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　九州）

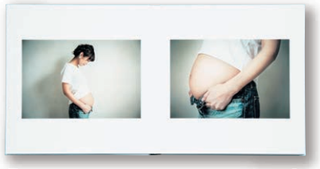
審査員特別賞

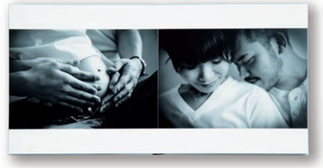
表紙


1　2

3　4

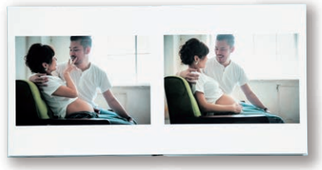
5　6


7　8


9　10

11　12

13　14


15　16

17　18

19　20

裏表紙

「LIFE」　三澤陽輔　スタジオ TVB 奈良店（奈良）

データ：デジタル一眼レフ　自然光

アルバム

■選評

表紙でマタニティーのアルバムであることは分かっていましたが、どういう展開があるのかワクワク感を覚えた作品です。マタニティーの、ご夫婦の写真を、モノクロを含めてバラエティー豊かに構成されていて、これから生まれてくる赤ちゃんへの期待感や愛情が伝わってくるアルバムに仕上げられています。また、このアルバムで特筆すべきは、１枚１枚の写真が大胆なフレーミング、トリミング、カメラアングルで撮影していることで、従来の営業写真の感覚にはないセンスを感じます。「１枚１枚が生きて、はじめて１冊の優れたアルバムが出来上がる」それを実現した作品といえます。

■喜びの声

このたびは審査員特別賞をいただき、ありがとうございます。
受賞した「LIFE」というアルバムは、大切な友人夫妻と信頼するヘアメイクさんと共に作り上げた思い入れの強い作品です。
ふたりの自然な瞬間を狙うためにストロボなどのライティングは組まず、ハウススタジオの窓から入る自然光での撮影にこだわりました。
今回撮影に関しては一任してくださったので、肩の力を抜いて自分らしく撮ることができました。
ふたりの会話に参加させてもらいながら楽しく撮影を進めていると、お腹の赤ちゃんの存在を確かに感じる瞬間が何度もあり、結果的にふたりのあたたかい空気感をたくさん形にすることができたと思います。
私たちの想いを素敵なアルバムに仕上げてくださった富士フイルムイメージングシステムズ様にも改めて感謝を申し上げます。
色味、品質ともに本当に申し分なく、より自分の写真を好きになることができました。
未熟な部分も多々あるかと思いますが、自分が信じて応募した作品で今回このような賞を受賞できたことが、何よりうれしく光栄です。
撮影の半年後に、夫妻と無事に生まれた可維（かい）くんに会いに行ってきました。
私の目を見ながらぎゅっと手を握ってくれた、小さい命の力強さに感動したことを覚えています。
これからも家族の歩みを形に残すお手伝いをさせていただければうれしいです。
本当にありがとうございました！
（制作ラボ：富士フイルムイメージングシステムズ㈱　大阪）

優秀賞

「Black & Red」和嶋智之
㈱美光写苑　横浜ロイヤルパークホテル写真室（神奈川）
データ：デジタル一眼レフ　50mm　F3.5　1/125　自然光

「しあわせなとき」松山真彦　松山写真㈱（静岡）
データ：デジタル一眼レフ　24～70mm　F7.1　1/125　ストロボ

「ある日」阿部 学　あべ写真館（岡山）
データ：デジタル一眼レフ　110mm　F4.0　1/8　自然光

「パパとママの腕の中で…」坂巻友美　佐々木写真館（長野）
データ：デジタル一眼レフ　50mm　F2.0　1/640　蛍光灯

「753Anniversary」野口博幸　PhotoStudio・NOGUCHI（岡山）
データ：デジタル一眼レフ　70～200mm　F2.8　1/200　自然光　アルバム

優秀賞

「幸せのカギ」吉田弦矢
㈱イナバ写真館（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　24～70mm　F4.5
1/200　ストロボ

「The チェリスト」本山稔彦
㈱写真のトクダ（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　135mm　F2.0　1/100
ストロボ

「幼稚園大好き」野田エイタロウ
小さな写真館 ABC スタジオ 太宰府（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　24～105mm　F7.1
1/200　ストロボ

「節句の記念に」松尾勝彦　写真の松屋㈱（福岡）

データ：デジタル一眼レフ　28～300mm　F8.0　1/125　ストロボ

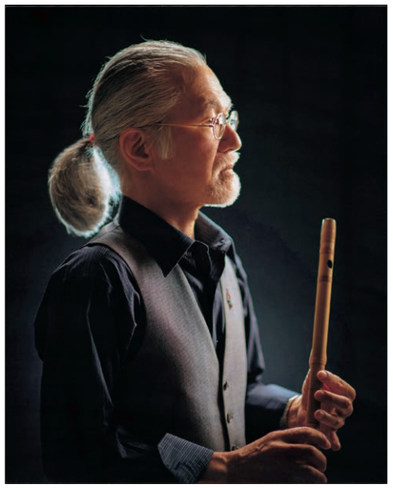
「行くぞー！オー！」仲嶺真弥　㈲日光写真館（沖縄）

データ：デジタル一眼レフ　24～105mm　F8.0　1/125　ストロボ

テーマ賞 大人ポートレート写真

「ロマンス・グレーな相棒」
朝風恵子　あさかぜ写真館（北海道）

「蕎麦の匠」
ウジイ ユタカ　ウジイフォトスタイル（山形）



「しの笛奏者 K」
伊東一平　伊東写真館（栃木）

「ダンディズム」
狩野精一　スタジオ カノウ（群馬）

「ポートレイト。」
矢吹尚也　㈲矢吹写真館（北海道）

「青木氏」
内田雅之　内田写真館（栃木）

「DANDYISM」
奥田高宏　奥田写真館（千葉）

「YoKo」
森藤ヒサシ　㈲ブリス（東京）

「ハタチ」
エビコ シンジ　蛯子写真館（青森）

「卒業写真」
堀 達朗　伊勢丹写真室アレーズ（東京）

テーマ賞 大人ポートレート写真

「マタニティ」

山崎健太郎　㈱薬師スタジオ 原町田店（東京）

「woman」

今井英子　今井写真館（新潟）

「優雅」

鷲津敬之　㈱ダブル・エディション（岐阜）

「Cool Beauty」

西岡 亮　MERRY LaRaLa...Photo Studio（三重）

「TAIKI くん」

永見昭一　ナガミ写真館（山口）

「アンバー イメージ」

鶴田一雄　㈱杉田写真館（福岡）

「今の私」

原田太一　原田写真館（福岡）

「think」

小林 司　㈲フォト司（熊本）

「もうすぐ」

中西雅人　中西写真館（鹿児島）

「ご婦人」

児島大志郎　㈲児島写真館（鹿児島）

テーマ賞 家族写真

「僕のハーフバースデー」
根本昌幸　㈱小貫写真館　パセオヌエボつくば店（茨城）

「G家の肖像－2017－」
ヤナセ セイジロー　ヤナセ写真館（埼玉）

「いつも仲良し」
浦野友則　ウラノ写真館（群馬）

「久しぶりの家族写真は！」
小林かずとも　クリエイティブ スタジオ小林写真館（千葉）

「孫と子供に囲まれて」
柳 祥平　㈱小貫写真館（茨城）

「おめでとう がんばったネ」
田中秀幸　㈲日の出写真商会（東京）

「世代」
萬谷 純　㈱光潮社 玉川髙島屋写真館（東京）

「還暦」
石川格也　㈱光潮社 伊勢丹写真室 新宿店 アネックス（東京）

「明るく元気　利部ファミリー」
青木 宏　㈲青木スタジオ（長野）

「さわやかファミリー」
清田知子　㈲セイタ写真館（神奈川）

テーマ賞 家族写真

「たからもの」

安部宣秀　安部写真館（福岡）

「45年…歩んできた道」

尾崎 積　独立軒写場（宮崎）

「古希祝い～TEAM MIZUSHIMA～」

高橋 元　Family Studio Genyo（福岡）

「僕ら丸岡ファミリー」

西田朋之　にしだ写真館（福岡）

「ママ、ママ…」

吉川真吾　やまざき写真館（静岡）

「Kファミリー」

南谷大輔　㈲カトーフォトスタジオ（愛知）

「オシャレなママとボクー！」

宮澤泰也　㈲宮沢写真館（長野）

「ファミリー」

滝 篤史　㈲写真館かつみ（愛知）

「全力全開」

菊池剛史　あかま写真館（福岡）

テーマ賞 子供写真

「やさしい時間」
早田眞二　㈲早田写真館（北海道）

「ちょっとオシャレして」
白岩大和　冨士写真舘（福島）

「天使ちゃん。」
田中久也　写真屋さんちゃいるど倶楽部（東京）

「シャボン玉」
久保田豪　スタジオジュノ（群馬）

「林檎ちゃん」
稲次寛　クッキーナッツ・スタジオ㈱（神奈川）

「ほほえみ」
菅野松太郎　㈱光潮社 伊勢丹写真室 新宿店（東京）

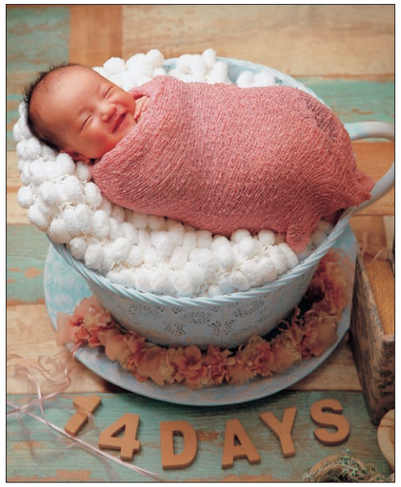
「カーズが大好き」
根岸春之　㈲ネギシスタジオ（富山）

「仲良し姉妹」
菅野太一郎　菅野写真館（神奈川）

「優しい風」
大井大　フォトグラフィック オオイ（神奈川）

「13才」
長谷川和男　アニバーサリー㈱長谷川写真館（新潟）

テーマ賞 子供写真



「14DAYS」
小坂泰文　フォトコザカ（石川）

「仲良し兄弟」
松浦裕次郎　木村写真館（兵庫）

「かりんちゃん」
蓑田憲明　㈲フジ写真館（熊本）

「おしゃれめがね」
平岡義弘　㈲平岡写真館（広島）

「気合い」
湯本一生　ユモトカラースタジオ（徳島）

「バレエ教室」
重松洋介　㈱写真のトクダ（福岡）

「球友」
太田順二　すみれ写真館（佐賀）

「小さなバイオリニスト」
牧野真也　マキノ写真館（宮崎）

「お姉ちゃんと一緒」
蔵元慎一　くらもと写真館（鹿児島）

「むぜかっ!!」
中村賢治　中村写真工房（鹿児島）

テーマ賞 入卒園・入卒学・七五三写真

「3才のプロフィール」
石川江亮　江陽写真室（宮城）

「嬉しい春」
齋藤千恵　㈱スタジオ・サイトー（山形）

「らんちゃんのうれしい入学」
会田　慎　美正写真館（福島）

「野球部の仲間」
青山　徹　青山写真館（北海道）

「あれから6年経ちました」
森本順三　㈲もりもと写真館（北海道）

「十三歳記念」
吉田和正　㈲吉田写真館（茨城）

「オキニの着物」
高寺洋雄　コマスタジオ（千葉）

「Gaku」
佐久間　剛　㈱小貫写真館（茨城）

「幼稚園楽しかったね！」
古宮清秀　㈲チバ写真（千葉）

「卒業の日」
石毛良二　ハートフルスタジオ イシゲ写真（千葉）

テーマ賞 入卒園・入卒学・七五三写真

「min^2 3歳」
岩村佳宏 ㈱光潮社 銀座三越伊勢丹写真室（東京）

「卒園したよ～。」
根岸優子 ㈲ネギシスタジオ（富山）

「手まり」
田賀谷 浩 ㈲田賀谷写真舘（東京）

「健翔くんの七五三」
大西真人 ㈲スタジオクニ（愛知）

「制服で」
田内光裕 ㈲清水写真館（静岡）

「仲良し三人組」
岡 利幸 はこざき写真館（福岡）

「K君の小学校卒業式」
西田晃三 いせや写真館（兵庫）

「the・cool」
金子田香子 ㈱イナバ写真館（福岡）

「思い出のカバンと」
重岡隼人 ㈲もとまつ写真場（福岡）

「おにいちゃんといっしょ」
田中克慶 ㈲田中写真館（鹿児島）

テーマ写真 成人式・婚礼写真

「白無垢」

成田アキヒロ　㈱スタジオエアー（青森）

「お色直し」

八幡富士男　八光スタジオ（岩手）

「ハタチ」

渋谷和宏　シブヤスタジオ（秋田）

「祝福」

主濱聡美　スタジオ キララ（岩手）

「She Said Yes!」

佐藤淑果　トサワ写真室（秋田）

「花嫁」

藤巻田光　成田ビューホテル写真室（千葉）

「クラシックウエディング」

鹿島浩一　㈱佐藤写真（東京）

「輝きの時」

富田豊　トミタスタジオ（東京）

「思い出の教室で」

阿部圭一郎
VLESS Photo Studio（茨城）

「Happiness」

森内徹　㈲こらら写真館（秋田）

テーマ賞 成人式・婚礼写真

「二十歳の一歩」
中川恵美　studio View（兵庫）

「微笑」
湯本和子　ユモトカラースタジオ（徳島）

「Japanese Tradition」
小山朋子　㈲小山写真館（香川）

「和装ロケ」
佐々木郊人　㈲佐々木写真館（長野）

「PEACE!!」
佐藤真一　広島プロデュース スタジオ101（広島）

「幸せの日に…」
廣田庸一　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

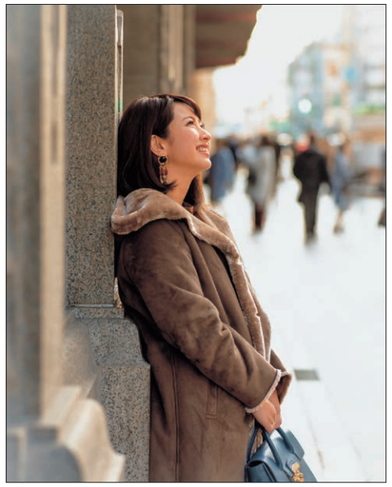
「サンタフェ」
藤井智一　㈱杉田写真館 本店（福岡）

「Japan Style」
染矢博幸　写真のそめや（大分）

「雨後の刻」
片岡義夫　片岡写真館（大分）

「Let's self assert」
三宅哲弘　みやけ写真館（鹿児島）

テーマ賞 ロケーション・スナップ



「遅い秋の街角で」
堤 賢一　日本橋髙島屋写真館（東京）

「幸せな秋の日」
佐藤 喬　フォトスタジオさとう（北海道）

「ひまわりに囲まれて」
下宮伸一　shimomiya photo office（長野）

「熱いまなざし」
濱田 剛　スタジオフォトス（北海道）

「私は…のぼりたくない…」
磯貝敏之　イソガイスタジオ（長野）

「今、此処で共にいる喜び」
竹川寛樹　松山写真㈱（静岡）

「ドラマチックなはじまりを…」
松井一元　Studio Oracle（静岡）

「falling rain」
森 正光　㈱デコルテ スタジオアクア（東京）

「日本の美」
川越直輝　スタジオＴＶＢ 堀江店（大阪）

「ロビーにて」
大屋岩人　DAIOKU写真スタジオ（三重）

「街灯りの中で」

中部重保　スタジオTVB 堺辻店（大阪）

「秋の花嫁」

島田健太郎　スミレ写真館（奈良）

「幸せいっぱい！」

三田孝平　TOTAL PHOTO LIFE カンダ（兵庫）

「Snowy Wedding」

千村征一郎　スタジオウィセーヌ米子店（鳥取）

「和室にて」

東繁正信　㈲スタジオエース（徳島）

「散歩道」

中野　剛　㈲ちょまつ写真場（福岡）

「庭園にて」

上林弘明　㈱杉田写真館（福岡）

「永遠に」

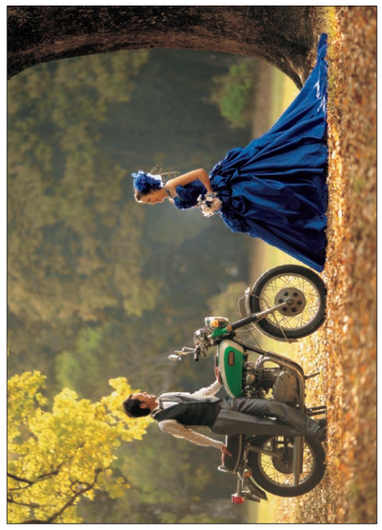
柳生直伸　㈲柳生写真館（山口）

「春の日ざしの中で」

横田　淳　ちょこた写真館（香川）

「祖父のバイクと」

中島アイ　神宮写真館（宮崎）



2018 富士フイルム営業写真コンテスト
金賞作家を訪ねて……長野県　タキザワ写真館　滝澤 一浩さん

「お客様が感動・満足する写真作り」そのために技術研鑽を続けて…

2018 富士フイルム営業写真コンテスト金賞作家の滝澤一浩さん（長野県上田市・タキザワ写真館）は、当コンテストにおいてこれまで銀賞４回、銅賞９回、優秀賞４回の受賞歴を持っており、これは歴代上位入賞者のなかで最多を誇る存在。これらの受賞歴からその技術力の高さは折り紙付きで、誰しもが認める実力者であって「金賞に最も近い営業写真家」とも言われ続けてきました。そしてついにそれが今年、実現したのです。

「金賞の知らせを聞いたときは、もちろん、うれしさはありましたが、それよりも何とも表現のしがたい金賞の重圧のようなものがこみ上げてきました。それだけ私にとっては大きな目標であって、なかなか簡単には実現できない世界だと思っていました」と滝澤さん。したがって、金賞受賞よりも、銀賞、銅賞、優秀賞をどれだけ多く受賞するか、そこに重きを置いていたために、今回の金賞は「まさか」といった感覚だったそうです。

滝澤さんの、これまでの営業写真家人生を振り返るとき、当コンテストは大きな存在だったようです。というのも、このコンテストに応募したのを契機に「もっともっと技術を磨きたい」と一念発起した経緯があるからです。

2000 年の銀賞受賞で少しの自信と大いなる希望

タキザワ写真館は明治末期に創業した老舗で、滝澤さんは４代目。平成元年に、それまでの商店街の立地から郊外型への展開に移行し、現在の地での営業を開始しています。滝澤さんは東京工芸大学を卒業後、東京の有賀写真館で４年間、同じく東京の小林写真館で３年間修業。有賀写真館では写真館としての基礎、小林写真館では撮影の実技について勉強し、29 歳の時にタキザワ写真館に戻って来ています。

「田舎の写真館ですので、技術に対する向上心が全くなかったわけではありませんが、平々凡々、写真館として営業を続けていければ…という感覚でした」と、当初は技術向上に対する思いはあまりなかったようです。

ですが、1997 年から当コンテストに応募しはじめ、1999 年にテーマ賞を受賞、そして翌年の2000 年には銀賞に輝き「頑張れば、この業界で何とかやっていけるかな、という少しばかりの自信と、今後に向けての大いなる希望を与えてくれました」と、当コンテストを契機に技術向上への意識が芽生えはじめました。滝澤さんにとって当コンテストは、その１年の集大成であり、その時の技術レベル、自分の立ち位置などを含め、写真館としての総合的な確認のためにチャレンジし続け、それを大きな励みにしてきました。

多くの先輩方のおかげで今の自分が存在

当コンテストに応募する傍ら、地元長野県組合をはじめ、各団体のフォトコンテスト等で作品を見たときに、そのレベルの高さに驚き「このままでは……」と危機感を覚え、意識はもっと高まっていったそうです。

滝澤 一浩さん

そして、若手の営業写真グループ・PGC へ入会したことで、お客様が満足する写真作りへの思いはさらに増幅していきました。そのPGC では、写真研究グループに属し「現在の営業写真界のレジェンドである柴田昌勝先生、富田豊先生、川地清広先生、ヤナセセイジロー先生、田中秀幸先生をはじめ、多くの先輩方から技術はもとより、営業写真の本質、お客様との向き合い方などを教わったことが今の自分の糧となっています」と滝澤さん。その後、それら先輩方が属する写真研究グループサークル「風」に入会し、定期的な合評会等を通じて技術に磨きをかけていきました。時には落ち込むこともあったそうですが「先輩方の、営業写真に向き合う真摯な思いを目の当たりにして、最初は真似でしたが、いつかは自分なりに昇華させていって、独自のものを完成させたいと思っています」と語るように、滝澤さんの営業写真に対する飽くなき探求心は現在も続いています。

「写真は自分が写る」だから人間性を磨くことが必要

さて、前述したように、滝澤さんは多くの受賞歴がありますが、それは決して賞を取るために努力してきたことではなく、あくまでも「お客様に感動・満足感を得てもらうため」の勉強であるという基本姿勢があります。つまり「上手くなりたい」というのは、最終的にお客様に喜んでもらいたい、という気持ちの表れだということです。「営業写真は綺麗に品よく、バランスよく、が基本ですが、そのためには構図、ライティング、色調などさまざまな要素が相まって最終的にお客様に感動してもらえる写真になると思っています。それを作っていくためには、日頃からさまざまなものを見たり、感じたりで、感受性を養っていく必要があると思っています」。

もう一つ、お客様が満足する写真作りをしていくために必要なことは「人間性」だと指摘しています。「写真は自分が写る」と言われていますが、人として、日々のさまざまなものに感謝し、節度を持って誠実に生きていくことが写真にも表れる、と話します。「自分がどこまでできているか甚だ疑問ですが……」と控えめですが、滝澤さんの温厚で誠実な人柄は、そのまま写真に反映されています。

上田市の郊外に立地するタキザワ写真館

大病を克服、当たり前の生活の素晴らしさを実感

滝澤さんは２年前に、現在2 人に１人はかかると言われている大病に冒され、手術をしています。体にメスを入れたわけですから、当然、ダメージは大きく、この２年間、種々の後遺症に悩まされていました。現在ではそれも治まり、元の体に戻りつつあります。「朝起きて、ごはんを食べ、店を掃除して仕事して…という当たり前の生活がどんなに素晴らしいことか痛感しています。やはり、人、もの、自然、全てのことに感謝しなければならないと感じています」と話します。

今後については「目標であった金賞を受賞したからといって、これまでの世界観が一変するわけではなく、これまでと同じように、来館していただいたお客様に向き合い、喜んでいただく写真を精一杯撮っていくだけです」と話すように、金賞を取ったという驕りなどは微塵も感じさせず、これまで同様にお客様のために仕事に打ち込んでいこうとする姿勢が印象的でした。病気を克服して、そして今回の金賞受賞、それを糧にしながら、これからも日々精進していく姿が目に浮かびます。

滝澤一浩さん　富士フイルム営業写真コンテスト金賞を祝う会　盛大に開催

滝澤一浩さんの「富士フイルム営業写真コンテスト金賞を祝う会」が10月9日、長野県上田市の上田東急REIホテルにて盛大に開催されました。

全国各地から120名が駆け付けて開催されたこの会は、終始賑やかなムードのなか、参加者一人ひとりが滝澤さんの受賞を祝う光景が随所で繰り広げられました。

発起人を代表して柴田昌勝さんが挨拶

モデルとなった細入さんご夫妻もお祝いに駆け付けました

滝澤さんご夫妻

全国各地から120 名が参集

お客様のかけがえのない思い出作りに欠かせない存在として

2018富士フイルム営業写真コンテスト表彰式、盛大に開催

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社は9月19日、東京・日比谷の帝国ホテルにて、2018富士フイルム営業写真コンテストの表彰式を、上位入賞者と入賞作品制作ラボを招いて盛大に開催いたしました。

表彰式に先立ち、富士フイルム株式会社の助野社長が挨拶に立ち「2018年度富士フイルム営業写真コンテストの上位入賞、誠におめでとうございます。日頃から良い作品を作り、技術・感性をいかに磨くかということに取り組まれてこられた意欲の結晶がここに表れたものと心から敬意を表します。富士フイルム営業写真コンテストは、今年で55回目になります。今年も9,900点を超えるたくさんのご応募をいただき、そのなかから選ばれた入賞作品を見させていただきましたが、非常にレベルの高い作品が多いと感じました。とくに今年は新しいスタイルに取り組まれている写真が増えていると感じました。そして皆様が撮った写真はプロにしか撮れない極上の写真であり、地域のお客様のかけがえのない思い出作りに欠かせない存在になっていることを改めて確認した次第です。プロならではの卓越した技術・感性を発揮して撮影に取り組まれている成果が表れていると思いました。写真館の皆様のイメージしたとおりにプリントするという観点から見ると、豊かな色調、階調、表現、立体感、奥行き感を実現するためには、私どもが長年培ってきた高画質の銀塩プリントがベストであると自負しています。

また、昨年、デジタルカメラGFXを発売して、入力から出力まで一貫した高品質の商品をラインアップすることで営業写真の皆様の要望にお応えするように努めています。皆様の仕事に貢献できるように、また、業界の発展に寄与できるようにメーカーとしての技術の腕を磨いていくことに努力をしていきたいと思っています。

富士フイルムは1934年の創業以来、写真文化の普及発展に取り組んできました。写真として残す、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、そうしたことを伝えることで写真文化を守り、育んでいくことは当社の使命と考えています。写真として残す営業写真を継承していくために今後とも当コンテストに応募していただき、盛り上げていただくようお願いいたしますとともに、お客様と直接接する写真館の方々には、より多くの人々に感動と喜びを与えていつまでもお客様に親しまれる写真を撮り続けていただけることを期待しております」と話しました。

富士フイルム株式会社
代表取締役社長・COO
助野 健児

富士フイルム株式会社
イメージング事業部長
岩﨑 哲也

富士フイルム イメージングシステムズ㈱
代表取締役社長・執行役員
西村 亨

プロにしか撮れない、お客様に感動を与える写真を

この後、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社の西村社長が、コンテストの経過報告として「今回は3,011人の方々から、9,934点のご応募をいただきました。厳正な審査の結果、金賞1名、銀賞5名、銅賞10名、審査員特別賞1名、優秀賞10名、テーマ賞119名、合計146名が入賞されました。栄えある金賞は、長野の『タキザワ写真館』滝澤一浩様が受賞されました。

さて、応募作品の全体傾向を報告したいと思います。『大人ポートレート』や『家族写真』では写真館ならではの多くの力作が目を引きました。今年は屋外での撮影を中心にしたカテゴリーとして『ロケーション・スナップ』を新テーマに設定したところ、多くの写真家から素晴らしい写真を多数応募いただきました。

また、6つのテーマそれぞれで、特別なポージングをせず被写体を正面から立ち姿でとらえ、被写体らしさを引き出している写真も多く、新鮮さと同時にチャレンジ性を感じました。

プリント品質についても濃度・色調とも安定しており、写真館とラボとの十分な連携がされていることがうかがえました」と述べたあと、6つのテーマそれぞれの傾向について審査員からの評価を報告し、最後に「入賞された皆様、本年度も多くの力作のご応募ありがとうございました。お客様のニーズに対応しながらも、プロにしか撮れない、お客様に感動を与える写真を撮り続けていただき、来年度も意欲あふれた作品の応募を期待いたします」と話しました。

続いて、受賞者を代表して、金賞の滝澤一浩さんが挨拶し、冒頭に金賞に至ったこれまでの経緯（前ページ参照）を述べた後、2年前にガン（初期）に冒されながらも手術で病巣を完全に取り除くことができたことを報告し「今、健康で当たり前のように生活し、仕事をしていますが、自分なりに向上心を持って再度、仕事ができるようになったことに感謝しなければなりません。これからは今までの私なりの経験と、ほんの少しばかりの自信を糧にして努力をしていきたいと思っています」と挨拶しました。

最後に全員での記念写真撮影、そして受賞パーティーが開催されました。その冒頭、富士フイルム株式会社の岩崎事業部長が「日頃は富士フイルムの製品をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。改めて、このたびの上位入賞者の皆様、受賞作品をプリントされたラボの皆様、ご家族の皆様、本当におめでとうございます。皆様方の日頃の精進が本日の受賞につながったと思っております。富士フイルムは、皆様方と一緒になって写真ビジネスを盛り上げてきました。まさに皆様方が使用しているプロの製品は、今後も開発していきます。今年9月、ドイツのケルンでフォトキナが開催されますが、そこでもプロの皆様に使っていただける感材の新製品を発表します。恐らく世界で私どもだけの製品だと自負しております。営業写真館の皆様はもとより、写真を使っていただく方、写真を愛していただける方に対して写真ビジネスを盛り上げていきたいと思っています」と挨拶した後、乾杯の音頭で開宴しました。宴の途中には恒例となった受賞者全員による「1分間スピーチ」が行われ、受賞の喜び、受賞作品について、感謝の気持ちが述べられ、和気あいあいのうちに午後7時過ぎに全スケジュールが終了しました。

金賞の喜びを語る滝澤さん

助野社長から表彰を受ける滝澤さん

受賞者とそのご家族の皆さん

2018富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品発表展のご案内

東京展
2018年12月21日（金）～ 28日（金）
10：00 ～ 19：00（最終日は16：00まで）
富士フイルムフォトサロン／東京
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 フジフイルム スクエア 1F
TEL. (03)6271-3351

福岡展
2019年1月25日（金）～ 30日（水）
10：00 ～ 18：30
富士フイルムフォトサロン／福岡
〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1 富士フイルムビル 1F
TEL. (092) 289-7307

大阪展
2019年2月15日（金）～ 21日（木）
10：00 ～ 19：00（最終日は14：00まで）
富士フイルムフォトサロン／大阪
〒541-0053 大阪市中央区本町2-5-7 メットライフ本町スクエア（旧大阪丸紅ビル）1F
TEL. (06) 6205-8000

名古屋展
2019年3月15日（金）～ 21日（木）
10：00 ～ 18：00（最終日は14：00まで）
富士フイルムフォトサロン／名古屋
〒460-0008 名古屋市中区栄1-12-17 富士フイルム名古屋ビル 1F
TEL. (052) 204-0830

札幌展
2019年4月12日（金）～ 17日（水）
10：00 ～ 18：00
富士フイルムフォトサロン／札幌
〒060-0042 札幌市中央区大通西6-1 富士フイルム札幌ビル 1F
TEL. (011) 241-7366

2018富士フイルム営業写真コンテスト入賞作品は富士フイルムホームページでもご覧になれます。
http://fujifilm.jp/promotion/shashinkan/contest/index.html

※本書は本コンテストに応募いただいた写真館様に、お届けさせていただきます。
※本書に掲載の写真の著作権は、各撮影者に帰属します。無断使用、無断転載は一切禁止します。

2018富士フイルム営業写真コンテスト作品集
No. 186 スタジオメモ継承
発　行 ── 平成30年12月1日
発行所 ── 〒141－0031　東京都品川区西五反田3－6－32
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
富士フイルム営業写真コンテスト事務局　03(6417)3770

FUJIFILM
Value from Innovation

人生の気概を伝える、格調の一枚。

2018 富士フイルム営業写真コンテスト 金賞「お気に入りのスーツで」 滝澤一浩　タキザワ写真館

単なる記録ではない。お客様の思いや人生までも肖像写真に込めたい。そんな写真館の矜持と選ばれた作品を、確かな品質のプリントとしてお届けするのが写真館向けプロラボサービス。銀塩写真ならではのプレミアムな輝きと存在感がここにあります。これからも、富士フイルムは、かけがえのない文化として、銀塩写真の魅力を伝え続けます。

フィルムから、データから、高品位なプリント・アルバムサービス。詳細はお取引ラボにご相談ください。

質を高めるプロラボ利用。
プロフェッショナル専用ペーパーの使用と、常に安定した色管理。出力のプロによる高品位プリントは写真館の信頼性アップに大きく貢献します。

効率を高めるプロラボ利用。
高度な技術が要求されるプリント、お客様の好みによって変わるアルバムへの対応。ラボの利用により、様々な業務の効率化が可能です。

余裕を生むプロラボ利用。
アルバム制作など、撮影後の作業をラボに依頼することで、お客様とのコミュニケーション、スキルアップなどにあてる時間の余裕が生まれます。

フィルムから、データから、高品位な銀塩プリント
写真館向け
プロラボサービス

富士フイルムイメージングシステムズ株式会社 フォトイメージング事業部　プロ営業部　〒141-0031　東京都品川区西五反田3-6-32　TEL.03(6417)3770